

フランス「内閣府社会的結束総局」による 専門的エデュケーターガイドライン

フランス厚生省（Ministère des Affaires sociales et de la Santé）
女性権利省（Ministère des Droits des femmes）
社会的結束総局（Direction générale de la cohésion sociale : DGCS）

原著「専門的エデュケーターの職業ガイドラインI~VIII」
（Référentiel professionnel de Educateur Spécialisé I~VIII）

謝辞

本報告書は早稲田大学社会的養育研究所がフランス厚生省（Ministère des Affaires sociales et de la Santé）、女性権利省（Ministère des Droits des femmes）、経済・産業・デジタル省（Ministre de l'Économie, de l'Industrie et du Numérique）の省庁共管組織である社会的結束総局（Direction générale de la cohésion sociale : DGCS）から許可を得て、原著「専門的エデュケーターの職業ガイドラインI~VIII（Référentiel professionnel de Educateur Spécialisé I~VIII）」のうち、I「プロフェッショナル・リファレンス」II「養成課程のガイドライン」を日本語訳したものです。日本語訳作成をご快諾いただいたフランスの省庁、翻訳をご担当いただいた立命館大学安發明子氏、そして本事業に助成していただいた日本財団に心より感謝申し上げます。

2023年7月

早稲田大学社会的養育研究所
所長 上鹿渡和宏

目次

概要.....	3
本資料について	3
フランスにおける本資料の位置付け.....	3
資料1、2について	3
資料1：プロフェッショナル・リファレンス.....	4
1. 職業の定義と介入の背景.....	4
2. 機能/活動のリファレンス	5
3. 能力の指標	7
能力分野1：専門的教育における関係性	7
能力分野2：教育的プロジェクトの構想と展開.....	10
能力分野3：多分野専門職チームでの協働とコミュニケーション.....	11
能力分野4：多機関連携のダイナミズム、パートナーシップとネットワーク.....	12
資料2：養成課程のガイドライン.....	14
養成分野1：専門的育における関係性.....	14
養成分野2：専門的教育プロジェクトのコンセプトと展開.....	15
養成分野3：多分野専門職チームでの協働と専門的コミュニケーション	16
養成分野4：多機関連携のダイナミズム、パートナーシップとネットワーク	16

概要

本資料について

本資料は児童保護分野、障害、成人の自立支援分野で中心的な役割を担う専門的エドゥケーター国家資格のガイドラインである。資料1は、職業の定義、役割と機能、対象者と活動場所、どのような能力が求められているかについて、資料2では3年間の養成課程で習得すべき内容が書かれている。

専門的エドゥケーターの養成課程では理論に1450時間、実習に2100時間(60週)が課せられており、6万5000人の有資格者がいる。社会問題、人間の抱える問題についての高い関心、チームワーク力、クリエイティビティ、責任感、個人的な職務へのエンゲージメント、相手の話を聴く力、頑丈な心理バランスが求められる。

翻訳した資料：「専門的エドゥケーター国家資格についての2018年8月22日の大臣アレテ(Arrêté du 22 août 2018 relatif au diplôme d'État d'éducateur spécialisé)」

<https://sante.gouv.fr/archives/les-metiers-du-travail-social/reforme-des-diplomes-en-travail-social/article/diplome-d-etat-d-educateur-specialise>

フランスにおける本資料の位置付け

各機関が専門職に期待する役割や枠組みを規定し、養成課程で習得すべき内容が書かれている。各養成校のカリキュラム策定の際に参照すべきガイドラインとなっている。

資料1、2について

資料1：プロフェッショナル・リファレンス (DEES – Annexe I Référentiel professionnel)

1「職業の定義と介入の背景」 2「機能/活動のリファレンス」 3「能力の指標」について書かれている。

専門的エドゥケーターは、包括的な教育的・社会的アプローチにより、社会化、自立、統合、挿入における力について困難を抱える個人、グループ、家族をサポートする役割を持つ。エドゥケーターは、児童保護、社会的職業的挿入、障害、青少年の司法保護を支援対象とし、人々の社会化のプロセスと自立に貢献するのみならず、人々を囲む環境と、社会全体に対し、社会的絆と連帯を強化することに働きかけるものと規定されている。そのために、クライアントの市民性実践の支援、クライアントがプロジェクトの主役となる条件をつくり、表現できるよう支える、実践を発展させるための情報収集や専門的知識の共有、実務経験を基本的人権の尊重をふまえた公共政策の評価に生かすなどの能力が求められている。

資料2：養成課程のガイドライン (DEES – Annexe II Référentiel de formation)

養成課程のガイドラインは4つの分野からなる。それらは、①専門的教育における利用者との関係性、②エドゥケーターが実施する専門的教育プロジェクトのコンセプトと展開、③多分野専門職チームでの協働と専門的コミュニケーション、④多機関連携のダイナミズム、パートナーシップとネットワーク、である。そのために、教育学、ジェンダー、社会政策、利用者を支えるための労働法や外国人の法的権利、紛争の解決と組織、異文化アプローチ、第二外国語などが含まれている。

資料1：プロフェッショナル・リファレンス

(原著 pp.5 - 13)

1. 職業の定義と介入の背景

専門的エドゥケーター(以下エドゥケーター)は、ソーシャルワーカーの一職種である。制度で示されたミッションの枠内で実践をおこなう。包括的な教育的・社会的アプローチにより、社会化、自立、統合、挿入における力について困難を抱える個人、グループ、家族をサポートする。(訳注1)

エドゥケーターは、倫理的な、相手個人を尊重するアプローチで関わる。エドゥケーターは、専門的な実践について思考を重ねることで、相手との関係を形成できるようにする。また、個人情報の守秘義務を守りつつ、専門的な実践の共有と分析に参加する。

実践の条件と関わりの方法

エドゥケーターは、予防、保護、社会統合のためにパートナーシップを組み政策に沿って活動する。

エドゥケーターは、学際的または多職種からなるチームの一員として活動する。制度として掲げられたプロジェクトと支援対象者の表現するニーズを尊重し活動する。

制度的な枠組みやミッションの内容に応じて、社会的教育的活動を、外部機関とパートナーシップを組み、プロジェクトを企画・コーディネートし、参加者の動員を行うことが求められる。地域のパートナーやネットワークとの関係性の中で活動する。

エドゥケーターは、活動する分野や環境の発展について、エキスパートとしてアップデートをおこない、専門性を高める。自身の活動や関わりの中にアップデートによって得られた発展を反映させる。活動についての分析をアクターたちと共有する。(訳注2)

役割と機能

エドゥケーターは、困難な状況にある子ども、おとな、家族、グループ、脆弱な状況にある人や障害者を対象とした活動をする。これらの人々が守られ、サポートを受け、権利が尊重され行使されるための条件を整えることに貢献する。

エドゥケーターは、人々の社会化のプロセスと自立に貢献する。

エドゥケーターは人々を囲む環境と、社会全体に対し、社会的絆と連帯を強化することに寄与する。

人の個人の発展と開花を支える。社会的職業的挿入にも貢献することができる。

エドゥケーターは、公式および非公式の日常的な状況について観察をおこない、教育的な関わりを構築する。

エドゥケーターの職業的姿勢は感情移入、傾聴、親身さを土台とする。相手に合わせたタイミングで時間をつくり相手に適応する。

各々の希望や潜在力に合ったタイミングで、個人やグループに対し教育的サポートを展開することが求められる。(訳注3)

ニーズに適した活動についての仮説をチームと共有し、分析する。

支援対象について個別にプロジェクトを企画し、社会的教育的活動を設計、展開、評価する。さまざまな方法論を駆使してアクションを創造、実装し、活や仲介を具体的に提案し、クリエイティビティを発揮する。

職務において個人情報の守秘義務を尊重する。ニーズについての分析、評価、そして社会的教育的政策の方向性として必要とされる調整について活動している機関に提言する。

十分な経験を積んだ後は、専門的な知識やノウハウの継承を目的とし、研修専門機関と連携して研修（初回養成または継続）を受ける専門職に向け専門的アドバイザーとして関わるなど、職業の専門化プロセスに参加する。

対象者及び関わりのある分野

対象者

子ども、青少年、おとな、家族、脆弱な状況にいる人々のグループや障害者等

雇用者

地方自治体、民間団体、企業、公共機関、3つの公共機能（国、病院、地域）等

社会政策

児童保護、社会的職業的挿入、障害、青少年の司法保護等

活動場所

社会的性格を持つ児童養護施設、児童施設、若年労働者施設、母子生活支援施設、在宅教育支援機関、専門的予防（訳註：路上エデュケーター）、社会挿入施設、多様な宿泊施設、保育施設、学校、運動教育機関、医療教育機関、作業支援施設（ESAT）、医療心理教育センター（CMPP）、特別教育・在宅支援サービス（SESSAD）、病院等。

2. 機能/活動のリファレンス

機能：教育的関係の構築

機能の説明

エデュケーターは、公式・非公式の空間において日常的な状況に基づいて、人々との信頼関係を構築する。相手を受け入れ、傾聴する姿勢をとる。人々が表現し、自身の要求を表現することを支える。相手の状況を分析し、ニーズを理解し、潜在的な力を見出す。エデュケーターは、状況について経験したことをチームで共有し分析し、自身の実践と姿勢を問い直す。

活動の内容

- 相手との関わりに適した環境を整える。
- 個人やグループと教育的な関係を構築する。
- 人々が表現することを支え、意見を集める。
- 人々の持つ潜在的な力を見出す。
- 教育的関わりをすることができるために、日常生活の中で機会をつかむ。
- やりとりの機会や教育的アクティビティを生かす。

機能：個人またはグループへの教育的サポート

機能の説明

エデュケーターは、個人またはグループに対し教育的サポートを行う。一人ひとりの個別性に配慮した上で関わることで、自立と社会化を促し、集団の中で一人ひとりが自分の場所（訳註：立ち位置）を見つけられるように貢献する。人々の日常生活にお

ける基準やルールを構築することを目的とする。その人の歴史と潜在力を尊重しながら、その人の歩みに貢献する。

活動の内容

- 個人、家族、グループ、環境からの資源を動員する。
- 個人が教育的サポートに参加しやすいよう調整する。
- 日常生活を活性化する。
- 潜在的な力を発展させていくための機会、創造性のある機会を作り出す。
- 人々が社会の中で役割や自分の場所を得る支えとなる「第三者」の役割を果たす。
(訳註4)
- 個人またはグループが市民として社会参加するための社会的ルールに関する知識、理解、適応を支え、継承する。
- 人と人之间、グループ内のコミュニケーションの条件を整える。
- 個人がアイデンティティと個性を構築することを支える。

機能：チーム内での社会的教育的アクションの設計、実施、分析

機能の説明

エドゥケーターは、社会的教育的活動を企画し、実施し、評価する。

所属する機関のプロジェクトに沿った活動を、学際的かつ多職種からなるチームの一員として実施する。様々なプロジェクトの展開にあたり、人々と環境を動員する。個々人に合ったプロジェクトを企画、実行、評価し、人々のニーズにできるだけ近い活動を展開する。そのために、チームと仮説を共有し、分析する。

社会的教育的活動を実施するために、エドゥケーターは必要なパートナーの参加を促し、ネットワークを動員する。

活動

- 個人がプロジェクトを構築、取り組み、環境を動員し、実現するのをサポートする。
- 社会的教育的プロジェクトをチームで実施しサポートする。
- プロジェクトのコーディネートを確実に行う。
- 社会的教育的プロジェクトとして実施されたアクションを、チームで評価する。
- 社会的教育的プロジェクトについて、広報し情報提供する。
- 専門的な文書を作成する。
- チーム、パートナーシップ、ネットワークワークでの取り組みを活性化させる。
- チームのリソースの蓄積に貢献する。

機能：プロフェッショナルに必要とされる知識や技術のアップデートと継承

機能の説明

エドゥケーターは個人の基本的な権利の尊重と実現に基づき教育的アクションを実施する。ミッションに関連する政治的、経済的、社会的背景に関する知識を常にアップデートし、知識の蓄積と更新をおこなう。同僚、専門職の将来を担う人々、現場を支えるアクターたちに実践や知識を継承するために、経験を意識的に共有する。

活動

- ソーシャル分野、教育分野の発展に関する知識や技術のアップデートを常におこない、専門性を維持向上させる。
- 公共政策について情報収集し、理解し、習得する。

- 複数のリファレンスとなる情報源から社会的教育的分野に関する知識を更新する。
- 所属機関のプロジェクトに沿った継続的な評価プロセスに参加する。
- 知識と実践を継承し、共有する。
- 特定したニーズに関する公共政策の実現について提案する。

(訳註は IRTS Parmentier エデュケーター国家資格養成コース責任者 Alexandre Labelle 氏の協力による)

訳註 1: 自立とは、自身で生きていくことができる力で、必要なときに頼むことができ、誰に頼めばいいかを知っていることも含む。料理や家事や子育てや仕事も含め、自身でできないことをエデュケーターは自身でできるように支え、できない部分は適切な人に頼めるよう支える。

訳註 2: アクターとは、主にソーシャルワークに関連する、大臣、担当省庁、自治体、県議会、市議会、関係機関、そしてそれぞれの担当などの中から、利用者やミッションに応じて重要な役割を担う機関や人物のことを指す。

訳註 3: 可能性(capacité)ではなく潜在力(potentialité)という言葉がこのリファレンスにおいては多用している。それは、全ての人に潜在力があり、ポジティブな前進をすることができるという前提のうえで、エデュケーターの役割はその潜在力が引き出され発展するのを支えることであると考えられているからである。

訳註 4: 「象徴的な機能(fonction symbolique)」は「第三者(tiers symbolique)」と同義であり、個人が世界、社会の中で自分の場所を作ることを支えるエデュケーターの役割を指す。そのために、ハードルとなっている攻撃性、抱えているさまざまな疑問、問題、苦しみを解決する方法を一緒に探す。より穏やかに社会と関わることができ、自信を持てるよう、傾聴し、プロジェクトを支える。

3. 能力の指標

能力分野1：専門的教育における関係性

社会的教育的サポートにおける教育的関係

能力	能力の指標
利用者を個として尊重し 迎え、倫理的な対応をす る	相手を個として迎えるための適した枠組みを認識し、作り出すことができる
	相手を個として迎える
	観察する
	話を聞く
	期待されていることを理解するために必要な情報、観察結果等を集める
教育的関係を形成する	絆を築く
	関係性をコンテキストの中に位置付ける
	個人としての自身と距離を置く(訳註1)
	専門職としての立ち位置を明確に保ち、状況に合った姿勢をとる(訳註2)
	関係性の中での自身の立ち位置を問い直す
個人やグループのニー ズ、期待、資源を特定し 分析する	個人やグループのおかれた状況を背景とともに理解する(訳註3)
	知り得た情報、観察結果、感じたことを分析する
	個として個人を理解するために観察し話を聞く
	グループのダイナミズムの中でそれぞれの現象を理解する
	悪い扱いやリスクの状況を予防し、察知する
個人の状況についての理	個人の人生や暮らしのコンテキストを観察し分析する

解を深める	教育的サポートをするために本人、家族、グループ、社会的環境の資源、ニーズ、期待を特定する
	個人にとっての緊急事態を特定し判断する
	個人にとってのリスク状況を特定する
倫理的に頼れる存在であること、調整機能を保障する	それぞれのアクションの意味を明確に伝える
	個人を関係性の主役として認識する
	個人の状況のコンテキストを十分理解する
	個人やグループと協働しながらサポートする枠組みを保障し明確に伝える
	安全な関わりの枠組みがあることを保障する
	第三者としての機能を保障する
	関係性の中の課題を理解する
	自らのエンゲージメントを特定し調整することができる(訳註4)
	相手の身体面心理面包括的な状況に気を配る
	頼りになる人として自身を位置付ける
	知識や技術のアップデートをお互い共有する
ルールと枠組みの中で個人をサポートする	集団生活や団体行動のルールを伝授する
	自身の関わりの枠組みを示し、それを維持する
	調整し頼れる機能を保障する
個人の自立と発展に貢献	相手が個であり完全であることを尊重する
	相手が個であることを尊重し、サポート方法を検討する
	個人またはグループにとってのタイミングを尊重する
	個人の能力、潜在的な力と困難とすることを認識する
	個人が積極的に取り組むことがらを見出し、理解し、調整する
	個人が熱心に取り組むものを見出し理解する
	個人の自らのために行動する力を支える
	個人の表現する力を引き出す
市民性実践のサポート	社会参加を容易にするための学びの機会をつくる
	個人の尊厳が尊重されていることを保障する
	個人やグループが権利を行使できるよう人々を支える
	グループの中のそれぞれの立ち位置を尊重しそれらが守られるよう配慮する
	個人が環境の中で自身の場所を得られるよう支える
	社会内のさまざまなアクターの役割や立ち位置の理解が共有されるよう支える(訳註5)
	社会内のさまざまなアクターの役割や立ち位置が理解されるためのアクションを実施する

社会的教育的サポートの枠組み

能力	能力の指標
出合いややりとりに適した枠組みを調整する	話す空間を整える
	相手の表現を受け取り、希望やニーズを聞く
	自身を紹介し、枠組みやミッションを説明する
	相手の希望とニーズに合わせて話し合いの機会を工夫する
やりとりを可能にするインフォーマルな時間と空間をつくりだす	教育的アクティビティを有効にするためのダイナミズムを構築する
	アクティビティや意見交換の持つ意味を共有する
	個人やグループの期待や資源に合わせ調整する
	ニーズや目的に合ったアクティビティを企画実行する
教育的関わりに適した時	教育的活動ツールを臨機応変に活用する

間と空間を作り出す	インフォーマルな時間にも時間を十分共有することで信頼できる存在であることを示す
	必要とされているとき十分に相手のために時間をつくる
	不測の事態に適応した行動をとる
	インフォーマルな時間や空間がどのように選択されているか説明する
教育的関わりを可能にするための個人とグループとの日常的な関わり	教育的関わりのために個人とグループとの日常的な関わりを利用する
	日常の中に教育的な側面を与える
	パーソナルな空間を尊重し、本人も他の人に対し尊重できるようにする
	グループの活性化を支える
	日常に教育的な側面をもつ時間を作り出す
	個人やグループの日常の中に教育的メッセージを届ける機会となるタイミングを見つけ出す(訳註6)

人々の参加と動員

能力	能力の指標
教育的サポートのために本人、家族、グループ、環境からのリソースを十分動員するための条件を整える	本人と個人プロジェクトを共同作成する
	社会環境と資源を考慮する
	環境と地域のリソースを動員する
	個人が持つ潜在的な力を見つけ引き出す
	家族と近親者等の資源を見つけ動員する
個人や家族、環境の抱える困難やハードルを見つけ、教育的サポートをおこなう	
教育的サポートへの参加を求め支える	本人と個人プロジェクトを共同作成する
	サポートに本人の参加を動員する
	参加にともなう難しさを特定し分析する
	本人が表現し行動する力を支える
本人が自身のプロジェクトの主役となるための条件をつくりだす	個別性を認識し尊重する
	自身の抱くイメージと距離をおき捉え直す
	人々が希望を表現し、潜在能力を発展させることを支える
	教育的目的を持った空間や時間を作り出す
	人々が言葉にしたことを支える(訳註7)
	意思決定するための情報を伝える
意思決定を支える	
人々が表現できるよう支える	人々の表現を集めるための面接技法を駆使する
	個人が表現するために適したツールを提案することができる(訳註8)
	観察し話を聞く
	人々の表現を集める
	人々が表現できるための条件を整え、人々の言葉を支える(訳註7)
	人々の個別性を踏まえ自身に合った方法で表現できるようツールを駆使する
自身の持っているイメージや考えから距離をおくことができる	
人々が自身の権利にアクセスできるよう支える	権利について情報提供する
	話し相手に合った表現方法を使う
	権利が実現するよう個人とグループのリソースを動員する
個人の持つ可能性が発展するよう支える	個人の能力が発展し、維持されるための状況を作り出す
	個人やグループの潜在的な力を見つけ引き出す
	欠けていること、不可能なこと、障害を見つけ尊重する
グループ内の活性化を促	個々人のグループとの関わりを把握し理解する

す	グループを活性化し調整する
	個々が言葉に出し表現しやすいよう支える
	グループ内のコミュニケーションを円滑化する
集団のダイナミズムを活性化し支える	人々間の表現と意見交換を円滑にする
	コミュニケーション技術を駆使する
	グループのダイナミズムを観察する
	グループの機能を構成している要素を見極める
	集団的枠組みと個人に対する尊重が確保されるようにする

能力分野2：教育的プロジェクトの構想と展開

能力	能力指標
アクションのフォローアップへの参加を促す	プロジェクトの実施と必要な調整について人々に意見を求める
	人々の参加と同意を求める
	個々の関わり方に配慮する
	実現したことの価値を認め、続きの展望を支える
教育的サポートの様々な段階に人々が参加できるように条件を整える	人々の状況に適したコミュニケーションツールを使用する
	人々の参加を支える
	参加しやすくなるために人々が表現できる機会をつくる
	プロジェクトへの参加や支持を求める
教育的シチュエーションについて観察し、分析し、情報共有する	プロジェクトについての思考に貢献する
	状況を客観化する
	観察する
	分析する
共有の社会的教育的診断を確立する	制度的背景とミッションの枠組みを明らかにする
	個人やグループの状況を分析するための情報を集める
	社会的教育的診断を確立するための多職種による総合的な検討会を実施する
個人かその代理人とともに状況分析にもとづきサポート計画をたてる	個人のニーズ、期待、困難と疑問について知る
	個人の複雑さを理解し、状況を分析する
	個人のニーズについての要求や表現を支える
	サポート計画の目的を定め、調整する
	ニーズを表現するためのさまざまな方法を提案する
社会的教育的プロジェクトを設計する	個人の支持や同意が得られるよう工夫する
	ミッションの枠組みを特定し、社会的教育的プロジェクトの展開にチームとして参加する
	プロジェクトの方法論の活用
日常の活動の設計と実施	社会的教育的診断によって教育的アクションの仮説をたてる
	個人やグループのニーズ分析をもとに日常を活性化させる活動を実施する
	グループ内の個々人の尊重に貢献する
	日常生活での人々の関係性に貢献する
	グループのルールを個人の空間と時間と調和のとれたものとなるよう調整する
	個人のタイミングと期待を尊重する
	日常の枠組みやタイミングを、個人や個別の問題に適応させる
	日常の中でのアクションがチームとしてのアクションとして一貫性を持つようなツールを利用することができる(訳註9)
参加型アプローチに加わる	

	グループの中の機能不全を予防し問題解決する
	紛争管理のテクニックを利用する
個人またはグループに対する社会的教育的関わりを実現する	グループアクティビティを企画し実施する
	グループ内で個人が開花できるよう貢献する
	クリエイティブな空間ができるよう工夫する
	日常の時間をクリエイティブで出会いがある時間になるよう活用する
	教育的関係の中で自身のクリエイティビティと創造性を発展させる
	個人のクリエイティビティを刺激する
	ニーズに合った空間を選ぶ
社会的教育的プロジェクトのフォローアップを実施し、実施したアクションの効果を評価する	交流と協力のための場をつくり出す
	意見交換や協働の機会に参加する
	実施されたアクションに合った基準や指標を定める
	集合的な枠組みで評価ツールを策定する
	プロジェクトに参加しているさまざまなアクターの分析を求め、考慮する
	実施したアクションを再調整する
	プロジェクトの全体的なアプローチに評価を含める
社会的教育的プロジェクトの枠組みの中で実践を再調整する	チームとともにフォローアップ、調整と評価の方法を作り上げる
	実践を再調整するためにアクションの意味を問い直す
	社会的教育的プロジェクトのさまざまなアクターの相互作用について分析し共有する
	実践を問い直し、状況に適合し直す

能力分野3：多分野専門職チームでの協働とコミュニケーション

能力	能力指標
チームワークと所属機関のダイナミズムに参加する	自身のミッションの枠組みを明確にし、チーム戦略の策定に参加する
	自身の分析結果をチームに伝える
	自身の分析に向き合う
	他職種と連携する
チームとしての社会的教育的アクションの一貫性を確保する	所属機関のミッションとアクションの枠組みの中に自身のアクションを位置付ける
	決定に参加し、交渉する
	各々の能力を見出し、頼る
	社会的教育的アクションが一貫性と調和を持つよう工夫する
社会的教育的プロジェクトを紹介する	アクションの持つ意味を共有する
	社会的教育的プロジェクトと担当部署のプロジェクトを関連づける
	社会的教育的プロジェクトの実装にあたり人々の参加と支持を求め支える
	プロジェクトが全てのアクターによって支えられるよう調整する
人々の権利を尊重し倫理的な枠組みの中で、情報を作成、管理、共有する	情報を構成し、要約し、分析する
	有益で不可欠な情報を選出し伝える
	法的枠組みに合った情報伝達
	第三者に伝達可能な文書を作成する
	情報の伝え方を宛先に適応させる
	個人に関する情報の利用と伝達先を保証する
専門的な文書作成の方法	さまざまな文書作成の方法を習得し実行することができる
	相手と目的に合わせて文書作成することができる
	状況に合わせて受け取り手に適した文章作成ができる
デジタル環境の活用	オフィスツール、デジタルツールを利用できる

	規則に合わせ、相手を尊重した形でさまざまな方法で情報共有することができる
	デジタル技術の利用について常にアップデートする
機関、制度を代表する	担当、機関、制度、プロジェクトの中の自身の位置付けを明確にする
	自身について、担当と機関と制度について紹介できる
	環境と地域の中での担当、機関、制度を明確に示すことができる

能力分野4：多機関連携のダイナミズム、パートナーシップとネットワーク

能力	能力指標
社会的教育的プロジェクトの実現に必要なアクターを動員する	アクターにプロジェクトの説明をする(訳註5) アクター間の情報交換と協働を支える
パートナーシップ関係を構築し維持する	自身のアクションを、担当、機関、制度、プロジェクトの枠組みの中に位置付ける ソーシャルワークにおいてのパートナーとして重要なアクターたちを特定し連携する 地域のパートナーやアクターそれぞれの能力を特定し、頼る 地域のパートナーやアクターと協働する 交渉し、決定に参加する プロフェッショナル間、パートナー間のネットワークを構築し、協働する
実践を発展させるために、情報収集し、継続研修を受ける	情報源となる場所を見つけ出す 公共政策とその発展について常に知識をアップデートさせる 公共政策の実現にあたっての課題を理解する 関わりのある複数分野についての法律や規則について知識をアップデートさせる 知識分野と対象を広げる 多角的な情報源から分析と概念整理をおこなう 外国語を含む情報源から情報を収集し共有する
評価ツールについての思考、作成、使用に貢献する	チームの中、機関内の階層構造の中、機関のプロジェクトの中で自身の位置を特定する 自身のアクションを機関のプロジェクト、機関、担当のミッションの枠内で思考する 機関のアクションについての思考や反省をおこなう機会に参加する 評価アクションに自身の立場から貢献する 評価ツールの作成と改善に参加する
専門的知識の発展と共有	専門的実践の批判的分析をおこない、発展させる 適した場や対象に対して、専門的実践について共有する 専門的知識を広く共有する 職業的価値、知識と技術を継承し、実践の中でどのように駆使するか伝える 外国語も含め情報を収集し、共有する
実務経験を基本的人権の尊重をふまえた公共政策の施策の評価に生かす	状況分析の共有に貢献する 自身の関わる分野について観察したことや分析について議論し広く伝える 年に一度利用者が自身のプロジェクトについてチーム会議で話すときに、利用者が自身のニーズを伝え、意見を言うことを支える 基本的権利へのアクセスや行使についてどのような困難があるか情報を上にあげる 実務経験から得られた知見について記述し公開する

訳註は IRTS Parmentier エデュケーター国家資格養成コース責任者 Alexandre Labelle 氏の協力による。

訳註 1: 機関のミッションを担うチームの一員であるプロフェッショナルとして、個人的に持つ物の見方や偏見、予断、感情と距離をおくこと。

訳註 2: さまざまな相手(利用者、家族、連携先、裁判所等)やさまざまな状況に対応することが求められるが、常にエデュケーターとしてのミッションが意識された言動が求められる。

訳註 3: 個人的、家庭的、経済的、職業的、文化的、社会的背景とともに理解する。

訳註 4: エデュケーターとして個人的な感情と距離をおくために実践分析などの機会感情や問題、疑問、うまくいかないことについて取り上げ調整する。

訳註 5: アクターとは、主にソーシャルワークに関連する、大臣、担当省庁、自治体、県議会、市議会、機関や担当など。利用者やミッションに応じて重要な役割を担う機関や人物を特定し周知し連携する。

訳註 6: 日常生活の中の起床、出発準備、食事、入浴、就寝などのタイミングを教育的サポートの機会とし、その人の日常がよりよく進展し自立することを目指す。例えば献立作り、買い物、用意、食事、片付けを繰り返し共有する中で教育的関わりを重ね自立へとつなげる。

訳註 7: 「個人が言葉にしたことを支える」とは、言葉を信じ、それが理解され、意図に沿った結果がもたらされるよう支える。

訳註 8: 表現に適したツールとは、例えば言語化が難しい場合にピクトグラムの使用、表現するための遊びの利用、面接の機会を持つことなど。

訳註 9: 一貫性を持つようなツールとは、例えばチームで共同利用するソフトウェアによってその週の出来事を全てのメンバーが追うことができたり、一人の利用者の経緯を全てのメンバーが即時確認することができるツールの活用など。

資料2：養成課程のガイドライン

(原著 pp.14 - 23)

養成課程のガイドラインは4つの分野からなる。

分野1：専門的教育における関係性

分野2：専門的教育プロジェクトのコンセプトと展開

分野3：多分野専門職チームでの協働と専門的コミュニケーション

分野4：多機関連携のダイナミズム、パートナーシップとネットワーク

これら4つの分野は「調査方法入門」において扱う。

調査の各段階(最初の問い、課題設定、調査の仮説、調査フィールドの選択と方法論、素材の書き起こし、分析)

フィールドワーク調査と情報の収集(インタビュー調査、観察、アンケート等)

文献調査のテクニック

理論と概念にもとづいた状況分析

調査の段取りについての考察と自身の実践や職業的立ち位置についての自己分析

(訳者注: *éducation spécialisée* 専門的教育、*éducateur spécialisé* エデュケーター)

養成分野1：専門的教育における関係性

500時間

理論的知識		専門職対応の方法論	専門職としてのポジショニング
養成単位	養成内容	養成内容	養成内容
ソーシャルワークとエデュケーターの歴史	ソーシャルワークの社会的歴史のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の方法と技術 ・面接の方法と技術 ・教育的サポートの方法 ・さまざまな受け入れ方法 ・教育的関係を築く各段階 ・共同生活をオーガナイズする ・教育的仲裁の技術 ・クリエイティブな方法 ・教育的口述 ・資料調査と専門職としての知識と専門性のアップデート 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的姿勢、職業的実践の分析と考察 ・リスク状況や緊急事態の際の立ち位置 ・教育的リファレンス
	ソーシャルワークの倫理と価値		
	ソーシャルワークの発展		
	教育的活動の基盤		
	専門的エデュケーターという職業		
教育的関係	教育学の各流派		
	倫理と教育的機能		
	教育的関係の臨床		
	教育的調整		
	日常の教育的関係性		
人	生まれてから死ぬまでの人の成長ステップ		
	子どもと若者の心理面愛情面の成長		
	児童保護		
	アイデンティティの形成		
	ジェンダー概念		
	他者とは		
	道のりと経緯		

個人とグループ	グループとしての現象		
	個人と所属グループ		
	家族		
	グループのダイナミズム、調整と仲裁		
	グループの中の個人		
個人、グループ、社会	社会化、社会挿入、統合、包摂のプロセス		
	社会表象		
	社会内再生産		
	社会化空間		
	異文化		
	市民性		
	権利へのアクセス		
	社会生活への個人とグループの参加条件		
	暴力現象		
	女性への暴力		
利用者が抱える問題	差別、社会的に脆弱となる要因、疎外プロセス		
	悪い扱いという現象		
	リスク行為		
	障害の状況		
	自閉症		
	精神疾患と精神トラブル		

養成分野2：専門的教育プロジェクトのコンセプションと展開

400時間

理論的知識		専門職対応の方法論	専門職としてのポジショニング
養成単位	養成内容	養成内容	養成内容
社会的教育的プロジェクトの枠組みとサポート	プロジェクトの倫理	<ul style="list-style-type: none"> 社会的教育的プロジェクト構築の方法と教育的サポート 社会的教育的診断の方法と技術 地域とコンテキストの分析方法と技術 状況観察と臨床観察の方法と技術 評価の方法 教育的プロジェクトの仲介技術 資料調査の方法と専門職としての見守り 	<ul style="list-style-type: none"> 倫理的姿勢と専門職実践の分析 教育的プロジェクトとその分析における専門職の位置づけ
	プロジェクトの種類と構成		
	社会的教育的プロジェクトの評価		
	プロジェクトの制度内枠組みと規定		
	プロジェクトへの参加方法の種類		
個人またはグループのプロジェクトのサポート	個人とグループのプロジェクトへの参加		
	個人の環境と資源、家族の位置づけ		
	プロジェクトのダイナミズム		
	思考的アプローチ(訳注1)		
	心理的教育学(訳注2)		

養成分野3：多分野専門職チームでの協働と専門的コミュニケーション

300時間

理論的知識		専門職対応の方法論	専門職としてのポジショニング
養成単位	養成内容	養成内容	養成内容
コミュニケーション理論	コミュニケーションと情報のモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・記述の方法と技術 ・口頭によるコミュニケーションの方法と技術 ・情報収集の方法と技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション倫理 ・利用者の権利 ・口頭と記述によるコミュニケーションにおける専門職の守秘義務 ・機関内コミュニケーションにおける専門職の位置づけ ・専門的実践の分析、思考
	コミュニケーションと情報共有についての規定された枠組み		
ソーシャルワークのコミュニケーション	フォーマル、インフォーマルな専門的コミュニケーション		
	情報の循環と共有：個人情報の扱い		
	ソーシャルワークにおけるデジタル利用と実践		
	利用者のデジタル利用		
チームワークと機関内ダイナミズム	組織		
	さまざまな専門職の役割と位置づけを知る		
	チームの機能と課題		
	チーム機能不全の理解		
	制度による暴力という現象		
	紛争の調整		
	情報交換のダイナミズムとチームワーク		
	決定方法とプロジェクトの展開		
専門的記述	記録の種類		
	ソーシャルワークの記録の方法		
会議	会議の種類		
	分析と機能		
	連携他機関		
外国語	プロフェッショナルとして外国語を駆使する(訳注3)		
	ソーシャルワークに関する外国語専門用語の理解		

養成分野4：多機関連携のダイナミズム、パートナーシップとネットワーク

250時間

理論的知識		専門職対応の方法論	専門職としてのポジショニング
養成単位	養成内容	養成内容	養成内容
ソーシャルワーク制度の歴史、ミッション、作用	フランスとヨーロッパの政治と制度構造	<ul style="list-style-type: none"> ・多機関、ネットワークも含めたプロジェクトの構築方法 ・社会的発展のための方法 ・地域分析の方法とツール 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的姿勢 ・職業的実践分析と思考的アプローチ(訳注1) ・連携機関との関係における専門的姿勢、機関
	国の機関と自治体の役割		
	社会保障		
	児童保護		

	専門的教育についての制度の枠組み、行政、法律、政治	<ul style="list-style-type: none"> ・職業的実践の形式かの方法とツール ・職業的知識の継承と共有の方法と技術 ・実践に関する情報交換と連携に関する知識の共同構築の方法と技術 ・資料調査の方法と知識と技術の継続的アップデート 	<p>内、機関外連携とネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度、機関、組織と職務内容を明確に伝えることができる
フランスの社会政策の歴史と発展	社会政策、医療社会政策、教育的政策、社会挿入政策と法政策		
	社会的教育的政策のアクターと機関		
	専門的教育の法的枠組み		
パートナーシップとネットワーク	地域的アプローチ、パートナーシップとネットワーク		
	公的機関、民間機関の連携先とそれぞれの能力		
	ネットワーク協働の方法		
	パートナーシップ協働の方法		
法律入門	社会福祉家族法		
	公衆衛生法		
	市民法、刑法		
	労働法		
	外国人の権利		
	子どもの権利条約		
機関、福祉サービス、医療社会サービス、エデュケーターの働く機関	専門的教育、社会的、医療社会的サービスと機関		
	制度の機能とオーガナイゼーションの分析		
	制度的文化、職業的文化		
	制度を担うアクターたち：規定、役割、機能、課題、関係性、位置づけ		
	ソーシャルワークの協働と多機関間調整		
	地域へのアプローチ		
	ソーシャルワークと教育の異文化アプローチ		
	ソーシャルワークと教育の異文化アプローチ		
専門的教育と地域	ソーシャルワークの協働と多機関間調整		
	地域へのアプローチ		
	ソーシャルワークと教育の異文化アプローチ		

訳註はIRTS Parmentierエデュケーター国家資格養成コース責任者Alexandre Labelle氏の協力による。

訳註1: 相手が将来自立してプロジェクトを立てられるよう、自身の希望やニーズやプロジェクトについて思考することをサポートする。

訳註2: プシコペダゴジー

訳註3: 2018年より英語と第二外国語が義務付けられた。ソーシャルワークに関する英語の文献、講演、学会にアクセスできるため、そして、外国人利用者相手の仕事をスムーズにできるためである。

早稲田大学大学院総合研究機構社会的養育研究所

担当：安發明子（立命館大学）

2023（令和5）年7月

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION